

old signs

united-kingdom france spain italy

germany switzerland austria

netherland denmark belgium etc.

ヨーロッパ伝統の看板

文●写真——西川 潔



ダヴィッド社

著者紹介

西川潔にしかわきよし

1946年生れ

東京教育大学大学院美術学構成専攻修了

筑波大学芸術学系講師・視覚伝達デザイン

日本デザイン学会・日本映像学会々員

著書・ヴィジュアル コミュニケーション・分担執筆・ダヴィッド社・1975

写真集 間隙の風景・ダヴィッド社・1978

old signs

ヨーロッパ伝統の看板

発行日———1981年11月1日初版

著者———西川潔

発行者———越後谷勇治郎

印刷———株式会社写研
株式会社青柳製版所
秀和印刷株式会社

製本———株式会社徳住製本所

発行所———株式会社ダヴィッド社

〒162 新宿区単箭町39 振替・東京3 63144

図書コード———ISBN4-8048-0145-6

定価———2400円



1



2

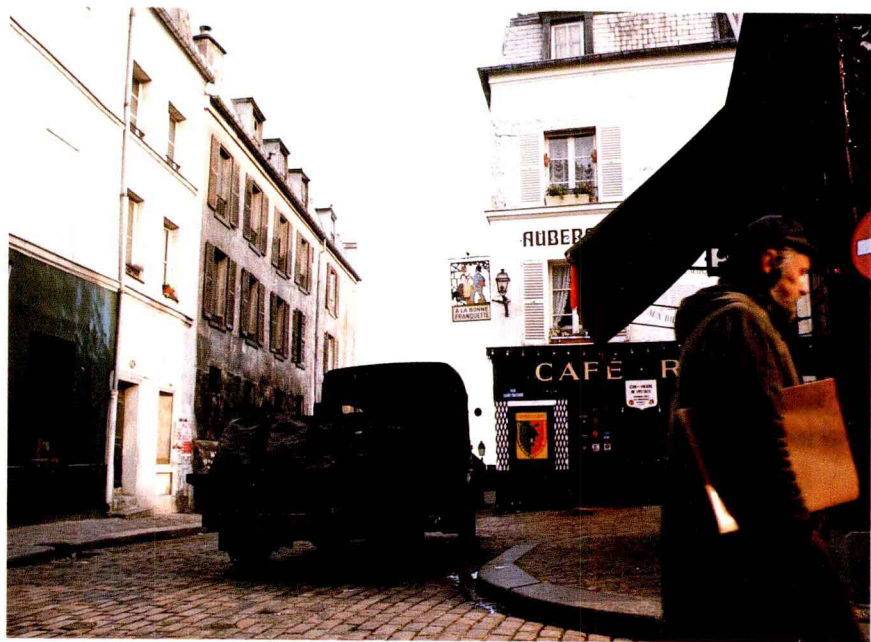


3

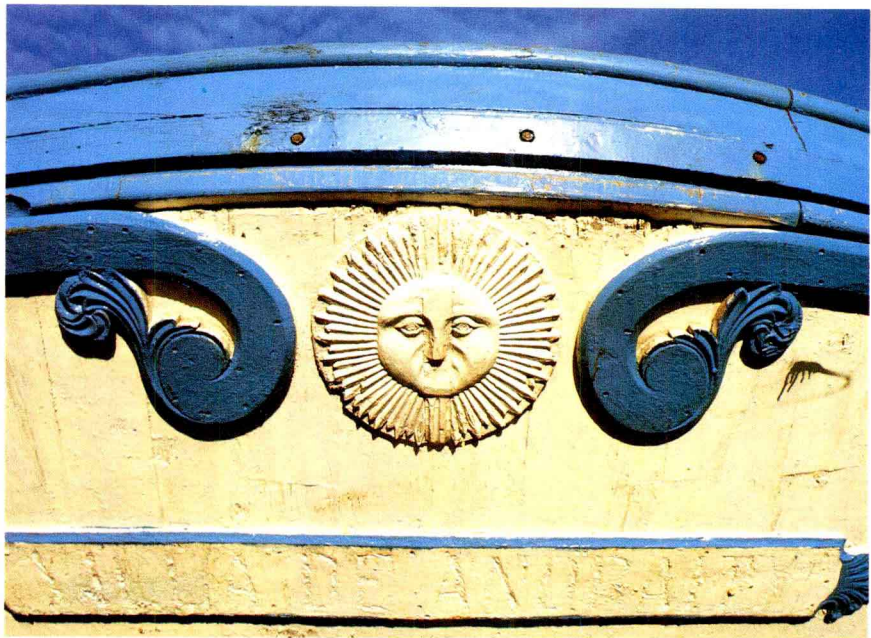
1 ティールーム | パリ—*paris·france*

2 レストラン | ローマ—*rome·italy*

3 本屋 | ウェルウィンガーデンシティ
welwyn gardencity·england



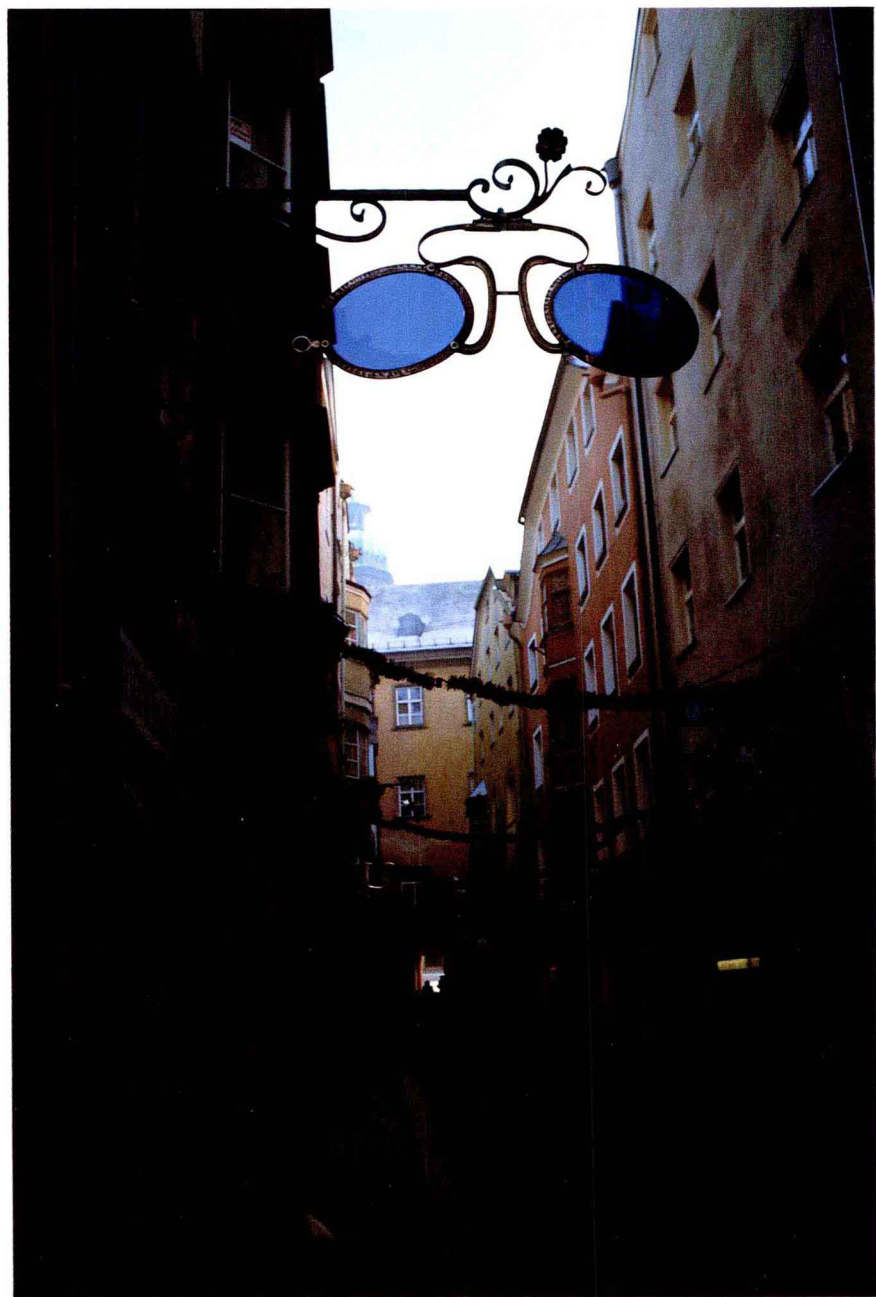
1



1 カフェ | パリ 2 船尾標 | パレルモ—*palermo·italy*



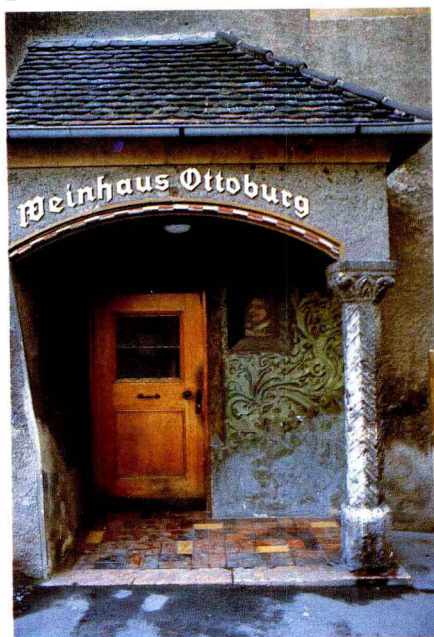
3 ガラス屋 | インスブルック—*innsbruck·austria*



1 眼鏡店 | インスブルック

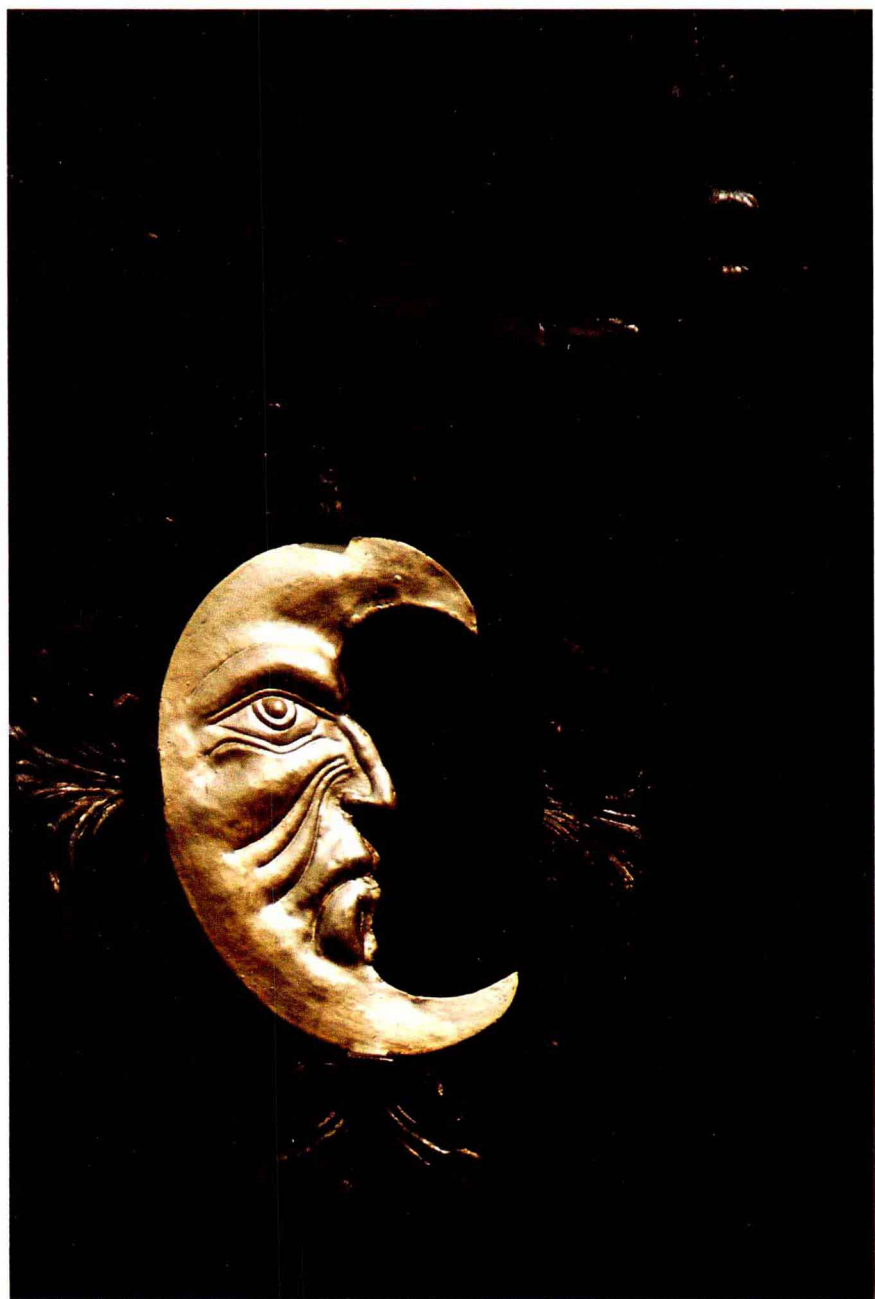


2



2 薬局 アムステルダム—amsterdam·netherlands 3 ホテル—オットーブルク | インスブルック

4 レストラン—羊屋 | シャフハウゼン—schaff·hausen·switzerland





2



3

1 ブルージュ—*brugge·belgium*

かつてのビールメーカーの看板らしく、現在
これが付けられている館は博物館になっている

2 木靴職人の家 | オーデンセ近郊

ヒューネン村民家園—*odense·denmark*

3 レストラン | ブレーメン—*bremen·west
germany*

童話「ブレーメンの音楽隊」に出てくる鳴く雄
鶏をモチーフにした看板

4 酒場—小さなラーツケラー | ブレーメン



4



1



2



- 1 ワイン酒場—鋤屋 | ウルム—ulm·germany 2 英国家具店 | ストックホルム—stockholm·sweden
3 ワイン会社 | コペンハーゲン—kopenhagen·denmark

ヨーロッパ伝統の看板

ヨーロッパ伝統の看板

西川 潔



ダヴィッド社

目次

序にかえて	看板の背景と概史	6
-------	----------	---



イギリス	14
------	----



フランス・スペイン・イタリア	42
----------------	----



オランダ・ベルギー	66
-----------	----



ドイツ	76
-----	----



スイス	102
-----	-----



オーストリア・東欧	ハンガリー・チェコスロヴァキア	132
-----------	-----------------	-----



北欧	デンマーク・スウェーデン・ノルウェイ	148
----	--------------------	-----



モチーフとその意味	164
-----------	-----

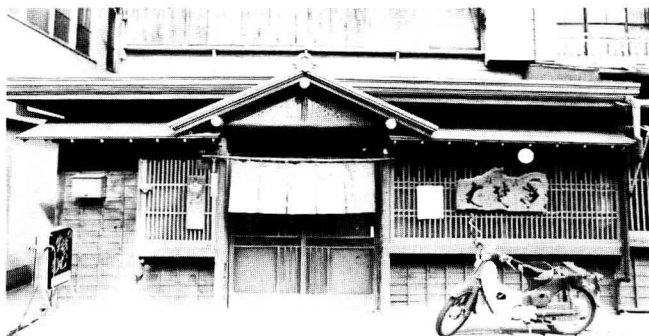
序にかえて

看板の背景と概史

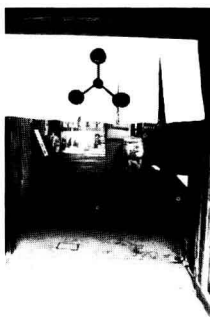
我々の街で見かける看板の文字が、最近とみに美しさを失ったと感じるのは、私だけではないと思う。文字を描く看板屋や、ペンキ屋の年季を入れた職人が、少なくなったからだろうか。ほんの20年も前であれば、文字を描く職人は、定規とコンパスで仕上げる活字風な文字は描けなかったものの、いくつかの型、例えば、寿司屋の、魚屋の、呉服屋のと、それぞれにふさわしい書体を、身につけていた。頼む方も当然その結果を予期していたので、現代風に言えば、クライアントとデザイナーとが言葉やスケッチを介さずとも、一応の了解があったと言えよう。ところで今、そのような看板や文字を全く見い出せないかというとうそもない。魚を運ぶ長距離トラックのボディーに、活きの良い、迫力ある文字やデザインを見ることがあるし、藍色の地に白く文字を染め抜いたそば屋の暖簾なども、その例として挙げられる。丹念に見て歩けば、まだまだあるに違いない。



金沢市・石川県

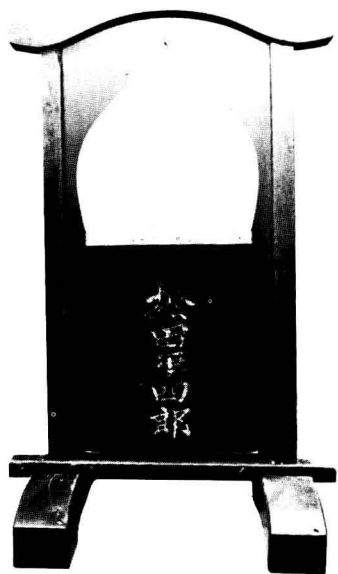


興津・千葉県



高山市・岐阜県

なぜなら我が国には、本書で取材した西洋のものに劣らぬ、優れた看板が古くからあった。書き文字の巧みさもさることながら、商品や、それをつくる道具の形から、その特長となる部分を大胆にひき出す日本人の感覚には、目を見張らせるものがある。それらは、眼にとまりやすく、美しく、強い印象を与え、長い時間の使用に耐え得る簡素な構造をしており、つまり、看板として優れた機能を果たしていた。



筆屋・松田文華堂・金沢市
『日本のしるし』3 p49

自動車から見える街

パリを代表とするバロック都市の出現には、都市内における二輪、四輪の馬車の発達が大きく作用していたように、自動車の出現も都市を変えた。バロック都市が、広大な帝国権力の中枢地のみに限られたのに比べて、自動車の侵入は場所を選ばなかった。時を同じくして時代は大量生産の道を着実に歩んでいた。商店や、その連なりとしての街並も、その影響を免れる訳